

平成 30 年度（2018 年度）

社会福祉法人吹田市社会福祉協議会事業計画

地域住民、各関連団体の参画のもと社会福祉法人吹田市社会福祉協議会（以下、「吹社協」という。）が策定しました第 3 次地域福祉活動計画（平成 27 年度～平成 31 年度）の 4 年目を迎えます。今年度も計画に挙げられた項目を着実に推進し、誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりに向けて、さらなる地域福祉の充実が図れるよう各種事業に取り組んでまいります。

昨年度、社会福祉施設の協力のもと、順次準備を進めてきた緊急時安否確認（かぎ預かり）事業は、地区福祉委員会が実施する小地域ネットワーク活動であるひとり暮らし高齢者の見守り声かけ活動の一環として、ご本人同意のもとにご自宅の鍵をお預かりするものです。この事業を通じて、地域でひとり暮らし高齢者を見守るネットワークの充実を進めるとともに、吹田市社会福祉協議会施設連絡会（以下、「施設連」という。）加盟の社会福祉施設の社会貢献事業との連携を深めることに繋がると考えています。今年度もこの事業の円滑実施と拡充を進めていきます。

また、いずれも吹田市からの委託によって配置されている広域型

生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカー（以下、「CSW」という。）の連携によって、地区福祉委員会をはじめとする地域住民、関連団体に呼びかけ、実施可能な地区から「高齢者のこれからを考える交流会」を本年度も開催します。超高齢社会において、互いに支え合う地域福祉活動への新たな担い手を増やすことや、生活課題の解決を検討する機会を設け、地域住民、関連団体とともに実践に繋げてまいります。

多発する自然災害によって、昨年度大阪府内でも社会福祉協議会を中心とした災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアの円滑なコーディネートを実施することで、被災者の生活再建の一助となりました。吹社協においても、災害に関する団体と平時に顔を合わせ、協議することによって、有事に備え、そのネットワークを活かしたいと考えています。本年度は吹社協ボランティアセンターとも連携し、有資格者を含めた災害ボランティアの事前登録制度を他市の社会福祉協議会の事例を参考に取り組んでまいります。また、地域と日頃から連携協働しているCSWを活かした災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練を実施します。

地区福祉委員会や、吹田市ボランティア連絡会加盟グループ、施

設連と連携した、小・中学校での福祉教育を今年度も積極的に実施してまいります。この福祉教育においては、事前に学校とも十分に話し合っただけでなく、地域で児童生徒を育む良い機会として、人を思いやる気持ちを大切にしたいと考えて実施します。また、福祉の学びを支援するだけでなく、児童期から吹社協の存在を身近に感じて役割を知ってもらうきっかけに繋がると考えています。

その他、以下の7点も重点目標として取り組んでまいります。

[地域福祉課・総務課庶務係共通]

1. 日常生活自立支援事業と法人後見事業による権利擁護の推進
 - ・権利侵害されずに自分らしい生活ができるよう新たな仕組みを提言できるよう検討
2. 広報活動の強化
 - ・社協だよりのカラー化とホームページの機能強化
 - ・こども編集委員、広報モニター会議の開催
3. 自主財源の確保と活用内容の周知
 - ・吹社協賛助会費（地域ふくし協力金）の募集強化
 - ・吹田地区募金会事務局として共同募金運動の推進と拡充
 - ・善意銀行事業の広報強化

[地域福祉課地域福祉係]

4. 施設連との連携

- ・施設連の生活困窮者レスキュー事業「吹田しあわせネットワーク」との協働

- ・地区福祉委員長視察研修の実施、地区福祉委員会との協働

5. ボランティアセンターの機能強化

- ・立ち寄りやすいボランティアセンターへの基盤整備

6. 当事者支援

- ・認知症家族の会の支援と、高次脳機能障がい家族会・交流会の実施

[総務課在宅福祉係]

7. 利用者の視点にたった介護保険事業の実施

- ・通所介護事業における吹田市指定管理制度の継続申請